

2 学校評価計画

重点指標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考		
1	中高一貫教育校の特長を生かし、学び方や生き方の質を高め、一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばすための工夫・改善を図る。	1-1	中高一貫教育校に学ぶ生徒として誇りをもち、気持ちの良い挨拶と礼儀・礼節を大切にするとともに、時間や期限を守ることを通じて、社会に通用する人材を育成する。	生徒指導 教務 学習 各教科	生徒、保護者ともに約7割以上が、挨拶の習慣が身に付いていると思っている。しかし、日常生活の中でしっかり挨拶できていない生徒は、まだまだ多い印象である。また、3点固定(起床時刻、学習開始時刻、就寝時刻)と、提出物や課題を期限内に提出する指導をしているが、一部の生徒が守れていない状況が見受けられ、継続的な指導を必要としている。学校内外において、ほとんどの生徒は錦中生としての自覚と誇りを持って行動している。	【成果指標】誰に対しても、大きな声で自分から気持ちの良い挨拶をする習慣が身に付いている。 【成果指標】提出物や課題は、期限を意識して取り組んでいる。	誰に対しても、自分から気持ちの良い挨拶ができています。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、生徒指導部で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		1-2	健康な生活の維持向上に努めるとともに、部活動を通して心身ともに逞しい生徒を育成する。	保健指導 部活動指導	多くの生徒は、正しい生活習慣を身に付け健康管理に気を付けるとともに、部活動で多くのことを学び充実した学校生活を送っている。また、中学3年生の夏以降も、自らのあり方・生き方を考え、学習や部活動に意識を高く持ち取り組む生徒が見られる。しかし、不規則な生活や、自分の健康に気を配れない生徒も一部見られる。	【成果指標】規則正しい生活を通して健康な生活に気を配るとともに、部活動を通して多くのことを学び、心身ともに逞しくなっている。	規則正しい生活をするともに部活動を通して心身ともに逞しくなっている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、部活動担当で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		1-3	中高一貫教育校のミットの1つである時間のゆとりを生かし、資格取得や各種コンクール等への積極的な参加を促し、自ら学び、創造性を伸ばそうとする生徒を育てる。	各教科	英語科では、年間1回以上の英検受験を推奨しており、英語教室に目標を掲示したり、英語の時間に指導したりするなど、少しでも上の目標が達成できるように取り組んでいる。	【成果指標】英検の取得級に目標をもち、合格を目指して、計画的に学習を進め目標級を取得している。	英検の取得率(4級は中2、3級は中3、準2級は高1レベル) 1年 2年 3年 A 4級50%以上 3級55%以上 準2級40%以上 B 4級45%以上 3級45%以上 準2級30%以上 C 4級40%以上 3級35%以上 準2級20%以上 D 4級40%未満 3級35%未満 準2級20%未満	CまたはDの場合、教科で再検討	英検の取得率により評価
		1-4	朝の全校読書に取り組み、読書の習慣化を図る。	読書指導	読書に親しむ生徒は多い。習慣化とともに、本を読んだり、知識や教養を広めたりすることができるよう読書の質の向上に取り組むことが必要である。	【努力指標】読書が習慣化し、自立した読み手としての目的に沿った読書に取り組んでいる。	読書が好きである。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、読書指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		1-5	望ましい人間関係づくりとじめを見逃さない学校づくりに取り組み、問題があれば組織的に対応する。	特別活動 生徒指導	「学校へ行くのは楽しい」に肯定的な回答をした生徒の割合が9割、教師による組織的な対応についても肯定的評価が100%である。毎月の悩み・迷惑調査や年2回の生活アンケート、組織的な対応で生徒の些細な変化も見逃さない取り組みが継続されている。	【努力指標】望ましい人間関係づくりを目指す特別活動を実践するとともに、日常的な生徒観察や定期的なアンケート等を通してじめを見逃さない学校づくりに取り組んでいる。	「学校が楽しい」と感じる生徒を増やせるとともに、生徒観察や定期的なアンケート等とおして実態把握に努め、小さな変化にも組織的に対応している。 肯定的評価が A100% B95%以上 C90%以上 D90%未満	CまたはDの場合、管理職、生徒指導で再検討	教員対象アンケートにより評価
		1-6	生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進し、「自己有用感の高い生徒」を育てる。	生徒指導 各教科担任 各担任	「自分には良いところがある。」に肯定的な回答をした生徒の割合は約7割を超えているが、前期に比べて後期はポイントが減少する傾向にある。	【成果指標】生徒一人一人の良さを引き出し、認め、伸ばす教育を推進することで、生徒の自己有用感を高める指導をしている。	「自分には良いところがある。」と感じている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、管理職、生徒指導で再検討	生徒対象アンケートにより評価
2	学校研究のより一層の深化・充実を図るとともに、自律的な学びを通して、たくましく粘り強さを伴った確かな学力を育成する。	2-1	生徒に授業の大切さを伝えるとともに、「分かる楽しさ」「できる喜び」「学ぶ面白さ」が味わえる授業づくりに努める。	研究・学習 各教科	与えられた課題に対しては粘り強く取り組む姿勢や態度は身に付いてきている。さらに学ぶ意欲を育む授業を目指していく必要がある。	【満足度指標】適切な指導内容や課題により、授業への満足度を高めることができる。	教材研究に取り組み、「授業が良くなる」と回答する生徒を増やしている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		2-2	付けたい力が効果的に身に付く言語活動を設定したり、ICT活用を推進したりする。	研究 各教科	自分の考えを発表したり、グループ活動などで話し合う活動は大切であると95%以上の生徒が考えており、学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることができていると90%以上の生徒が答えている。各教科において、学習の目標や狙いを達成するために、効果的にグループやペアでの活動を取り入れていることが成果として現れている。	【満足度指標】話し合い、学び合い活動が充実し、自分の考えを広げたり、深めたりできている。	授業で生徒の間で話し合う活動がよく行われ、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	生徒対象アンケートにより評価
		2-3	基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、教える、学びきる指導を行う。	学習 各教科	生徒が主体的な学習を身に付けるために、課題の精選、フォーサイト(スケジュール帳)の活用に関する指導を行っている。生徒の状況を踏まえて、今後の取り組みを継続していく必要がある。	【成果指標】全教科で、基礎・基本の力が確実に定着するよう課題の出し方、評価方法を工夫し、学力推移調査等の結果に繋がっている。	個に応じた指導を通して、学力推移調査や定期テストにおいて、下位層を減らすまたは増やさないことができています。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価
		2-4	論理的な思考力・表現力を育成するために、根拠や筋道を明確にして、説明や論述をさせる指導を行う。	研究 各教科	「論理的思考力・表現力」を育成することを意識し、各教科で根拠や筋道を明確にし、説明や論述をさせる指導が行われており、今後さらに研究実践を重ねる必要がある。	【成果指標】全教科を通じて根拠や筋道を明確にして説明させるよう指導し、生徒の「論理的思考力・表現力」を伸ばすことができている。	考えの根拠や筋道を明確にして、説明や論述ができるよう指導し、生徒の「論理的な思考力・表現力」が伸ばすことができている。 肯定的評価が A90%以上 B80%以上 C70%以上 D70%未満	CまたはDの場合、各教科で再検討	教員対象アンケート、学力調査等により評価

